

## 令和5年度 学校運営連絡協議会実施報告書

### 1 組織

- (1) 組織名 都立大島海洋国際高等学校 学校運営連絡協議会 (全日制課程)
- (2) 事務局の構成 副校長 (事務局長)、他副校長 1 名、経営企画室長 1 名、主事 2 名 計 5 名
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長、主幹教諭 (教務部主任)、主幹教諭 (生活指導部主任)、主幹教諭 (進路指導主任)、  
主幹教諭 (寄宿舎部主任)、主任教諭 (海洋・実習船部主任) 計 7 名
- (4) 協議委員の構成  
東京都立大学理学部生命科学科准教授、大島町教育文化課長、大島町観光協会会長、  
伊豆大島ジオパーク専門員、大島町立大島第三中学校長、大島町立つつじ小学校長  
波浮保育園長、元 PTA 会長、PTA 会長、PTA 副会長、 計 10 名

### 2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

#### (1) 連絡協議会

- 第1回 令和5年6月28日 (水) 内部委員 7 名、協議委員 10 名  
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出  
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題  
今年度の学校の取り組み計画、本校の現状と課題等説明、意見交換
- 第2回 令和5年10月13日 (金) 内部委員 7 名、協議委員 6 名  
これまでの教育活動に関する取り組み報告、及び現在の進捗状況  
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、その他意見交換
- 第3回 令和6年2月9日 (金) 内部委員 6 名、協議委員 5 名  
今年度の教育活動に関する取り組み報告、協議委員からの今年度教育活動に対する意見、  
学校評価アンケートの結果報告及び評価に対する意見交換、次年度に向けた本校の取り組み  
方針の確認

#### (2) 評価委員会

- 第1回 令和5年6月28日 (水) 内部委員 2 名、協議委員 4 名  
昨年度の学校評価結果の分析・考察  
今年度の学校評価実施に向けた検討
- 第2回 令和5年10月13日 (金) 内部委員 2 名、協議委員 3 名  
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討  
学校評価の基本方針の確認、質問項目の検討・確認
- 第3回 令和6年2月9日 (金) 内部委員 2 名、協議委員 3 名  
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書 (原案) の検討、確認  
来年度に向けた評価方法の検討

### 3 学校運営連絡協議会による学校評価 (学校評価報告)

(1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校の取り組み」「生徒・保護者の満足度」「地域からの視点」の観点で実施した。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

- |       |       |         |         |          |
|-------|-------|---------|---------|----------|
| ・ 10月 | 全校生徒  | 対象：173人 | 回収：173人 | 回収率：100% |
| ・ 10月 | 保護者全員 | 対象：173人 | 回収：92人  | 回収率：53%  |
| ・ 11月 | 地域・住民 | 対象：169人 | 回収：56人  | 回収率：33%  |
| ・ 10月 | 教職員   | 対象：51人  | 回収：51人  | 回収率：100% |

(3) 主な評価項目

- ・ 学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備  
校則、寄宿舎運営・寄宿舎生活・教職員のライフワークバランス

(4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）

- ・ 昨年度と比べアンケートの回収率が高くなり、学校に関する興味、期待の高さが増している。
- ・ 昨年度は学校に対する様々な問題提起的な意見が見られたが、本年度は建設的な意見が多かった。
- ・ 本校及び寄宿舎の老朽化に対する意見・要望が多くみられた。

(5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

- ・ 都内で唯一の海洋科を設置する学校として、地域住民、保護者の関心が高いことがうかがえる。今後も海洋科を有する学校として特色のある教育活動を進めていくことが必要である。
- ・ 全寮制の学校として寄宿舎生活に対して注目が集まっている。生徒の寄宿舎生活を更に時代に即したものにしていこう。今後も創意工夫をしながら取り組んでいく必要がある。
- ・ 島民は大島の活性化を望んでいる。多くの高校生を抱える本校の活動に期待を寄せている。少しでも島民の期待に応えるべく、地域と連携した島の活性化への取り組みが必要である。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・ 学校評価アンケートを実施し、回収率を上げたことにより、生徒、保護者、教職員から多くの意見、要望を聞くことが出来た。
- ・ 生徒、保護者のアンケート結果から、校舎や寄宿舎の設備の老朽化により生徒が生活しづらい状況であることが分かった。生徒が快適な学校生活、寄宿舎生活が送れるよう今年度同様、更に設備の修繕や導入を進めていきたい。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・ 大島にある学校として近隣の方々が、地域の活性化を強く望んでおり、活性化のために生徒との交流を強く望んでいることを強く感じた。寄宿舎のある本校において、どのように地域に密着したイベントや行事を今後取り入れていくことが今後の課題である。
- ・ 本校は南部（島の最南端の波浮港）に位置しているため、北部の島民の生徒たちが気軽に通える様な交通手段（移動手段）を公的機関と協力しながら模索する必要がある。
- ・ 寄宿舎という特色のある施設を有する学校にも関わらず、保護者が寄宿舎の様子をよく知らず、理解してもらえてない状況が浮かび上がった。保護者はもちろん、寄宿舎が広く都民に知ってもらえるよう、開かれた寄宿舎を目指し、見学会や説明会、情報公開を積極的に行う必要がある。

## 5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

### (1) 学校運営

- ・島にある高校として、機会があるたびに広く都民に学校の教育方針などを説明し理解を得る。
- ・寄宿舎を持つ本校として、子供の人権に配慮した学校教育を更に進める。

### (2) 学習指導

- ・全寮制である本校の特色を生かし、学校の授業以外に寄宿舎における学習活動を推進する。

### (3) 特別活動

- ・カッター部、セーリング部、潜水部、生物部といった大島の地形を生かした様々な部活動を更に活発に行う。

### (4) 生活指導

- ・生徒が親元から離れていることから、学校及び寄宿舎において今まで以上に保護者との連絡を密にし、家庭との連携を強化する。

### (5) 進路指導

- ・昨年同様、生徒一人一人の発達や、興味関心を見据えた継続的な指導を行う。

### (6) 健康・安全

- ・学校は勿論、乗船中、寄宿舎における生徒の安全面、健康面に配慮した教育を行う。特に心身のケアを充実させるべく、養護教諭、スクールカウンセラーの活用を更に積極的に行う。

## 6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

### (1) 協議委員人数 10人

### (2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
5	4	1	0	0	0	0

## 7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

本年度、協議委員の職員会議・企画調整会議への参加は実施しなかった。

## 8 その他

- ・保護者のアンケート回収率を更に高めるため、今後質問内容を分かり易く、厳選したものにする。
- ・本校の教育内容を保護者に対し十分に理解してもらうため、日頃からホームページなどを活用し、都民のみならず保護者への情報公開を積極的に行う。